各校の取組紹介 ～平良小学校編～

ICT を活用した各学校の取組を紹介します。今回は、平良小学校６年社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」の研究授業を取材しました。

授業では、縄文時代と弥生時代のくらし方を振り返った後、「縄文時代と弥生時代では、どちらの時代がくらしやすいのだろう」というめあてが設定され、「縄文派」か「弥生派」か、フォームを使って意見を聴取し、集計が提示されました。

その後、これまでの学習をもとに、ジャムボードに根拠をまとめた後、クラス討論を行いました。国語科の学習を生かし、討論会には、多くの子供が意欲をみせ、約 15 分間、途切れることなく活発に意見や質問が続きました。

授業者　杉谷先生のお話

・初めて本格的にジャムボードを使って授業をしたが、子供たちのタブレットへの関心が高く、意欲的に学習することができました。
・フォームを使ったことで、効果的に意思表示をさせることができ、根拠を明らかにしようとする必然性に繋がったと思います。
・ジャムボードを共有し、友達のフレームを見ることができるようにしたことで、テンポよく話し合いができました。

「縄文か？弥生か？」と時代を比較して評価することが目的ではないと考えますが、子供たちの主体的で活発な討論を促すために、自分の立ち位置を意識させ、その論拠となる事実をまとめさせていく過程に、タブレットが効果的に活用された授業でした。また、教師が話す時間は、指示を含んで僅か１０分でした。このことからも先生がファシリテートし、子供たち主体の学習が展開されていたことが分かります。

また、杉谷先生の学級では、スライドで作成した学級新聞や学級レクのポスターをクラスルームで公開する等、係活動で積極的にタブレットを活用しておられるそうです。そのきっかけは、年度当初、向井畑校長先生の「子供たちが（タブレットを）飽きるまで使わせなさい」という言葉だったそうです。

教師の指示や指導の下での活用に留まらせるだけでなく、子供たちの自主的な活動でタブレットに親しませる取組が大変参考になりました。